

地震について(その時どうする)

揺れを感じたら、まず自分の身の安全を確保します。屋内の場合、建物が倒壊するおそれがない限り、外には出ずにテーブルの下などに入って、頭と身体を守ります。ガスコンロなどの火元の安全確認は揺れがおさまってから行いましょう。

屋内の場合

揺れを感じたら

▶自分の身を守る

- 丈夫なテーブルや机などの下で身を伏せる
- 座布団やクッションなどで頭を守る
- 揺れがおさまるのを待つ



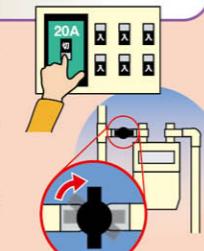
▶出口を確保する

- 玄関や窓を開けて出口を確保する
- 玄関や窓が再び閉まらないように、手近なものを挟みこんでおくとよい



▶火元を確認

- 小さな揺れの時には、すぐに火を消す
- 揺れがおさまってから、すべての火を消す
- 避難するときは、ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る



▶家族の安否を確認

- 声をかけて安否を確認する
- 離れている家族とは、あらかじめ決めておいた連絡方法で安否を確認する（集合場所に集まる、災害用伝言ダイヤルの利用、親類への伝言等）



▶近所の人の安否を確認

- 近所の人に声をかけて安否を確認する
- 身体の不自由な方やお年寄りには特に注意を払う



指定緊急避難場所等の集合場所に集まる

地震の備え

▶在宅避難

- 自宅が倒壊や火災のおそれの場合、自宅で避難生活を送る
- 家庭内備蓄の食料、飲料水、携帯トイレ等で生活を送る



▶避難所への避難

- 在宅避難が困難な場合は、避難所へ向かう
- 非常持出品を持ち、徒歩で避難する



発大規模な生活

外出先の場合

揺れを感じたら

▶道路・路地

- ブロック塀、自動販売機などのそばから離れる
- 窓ガラスや看板、壁タイルの落下などに注意し、頭をカバンなどで保護する



▶地下街

- 火災が発生しなければ比較的安全
- 停電時は、非常照明がつくまでやみに動かない
- 館内放送や係員の指示に従い、一つの非常口に殺到せずに地上に出る



▶運転中

- 徐々にスピードを落として、道路の左側に停車する
- エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車内に留まる
- 避難するときは、車のキーはつけたまま、ドアをロックせずに窓を閉める



海岸で地震が起きたら（津波への備え）

旅行先など、海岸や海に近い地域にいる時に地震が発生した場合、揺への対応に加えて、津波に注意することが非常に大切です。

- 「強い揺れ」「弱くても長い揺れ」を感じた、「津波警報」「津波注意報」などを見聞きしたら、すぐに海岸から離れて、可能な限り高い場所へ避難する
- 津波は第二波や第三波など、後から来襲する波のほうが波高が高い場合がある
- 「津波警報」「津波注意報」が解除されて安全が確認されるまでは、決して海岸には近づかない
- あらかじめ「津波避難場所」や「津波避難ビル」の場所、高台などへの経路を確認しておく

■津波 標識 ■



火災発生と初期消火

- 火災が発生した場合、どんな小さな火災であっても、大声で「火事だ」と叫び、周りの人に救助と119番通報を依頼します。
- 自主防災組織や消防団などが駆けつけた場合には、消火活動は慣れた人たちに任せて、自身の安全を最優先しましょう。
- 消火器や簡易消火具などで初期消火を行う際は、必ず避難路を確保しておきます。天井に炎が届く、または天井に火が燃え移った時点で初期消火を中止し、すぐに避難します。

